春日井のりかえアップデート・プロジェクト｜春日井市MaaS推進検討会

目的：乗換負荷の軽減と乗換データ取得を効率的に推進

- QRコードを用いた乗降や利用実績に応じた事後決済・割引の仕組みをMaaSアプリで構築することで、市民の公共交通の乗換時の負担軽減や運転士や市職員等の負担軽減、乗換を含む交通データ取得による多様な施策検討を通した地域公共交通の持続的な維持・運営を目指した

事業内容：QRの活用による「乗換」の促進とデータ取得・活用

【①事後決済QR乗車の導入】

- MaaSアプリ「move！かすがい」で、かすがいシティバスにおける事後決済QR乗車を導入した

【②マルチモーダル利用促進の実施】

- MaaSアプリ「move！かすがい」を用いて交通機関の利用認証を行うことで、複数の交通手段を利用した方に市内店舗の割引券を付与する等でマルチモーダルな公共交通利用を促した

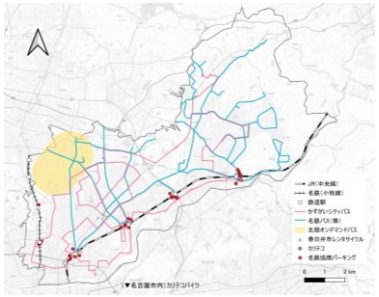
【③マルチモーダルな移動データの取得・活用】

- MaaSアプリで取得したデータを可視化するためのダッシュボードを制作すると共にシミュレーション環境を構築し、市内の交通に関する諸課題の検討に活用した

効果

- 課題：市民は乗り換えに抵抗を感じており、その結果公共交通利用を避ける傾向にあった。また異なる交通手段間の利用データが入手・活用できない状況にあった
- 効果：実証参加者のアンケート調査により、35%の人が複数の交通手段を乗り換えて移動する頻度が増加した。春日井市内で交通手段の種類をまたぐ利用データを取得し可視化を行うことができた

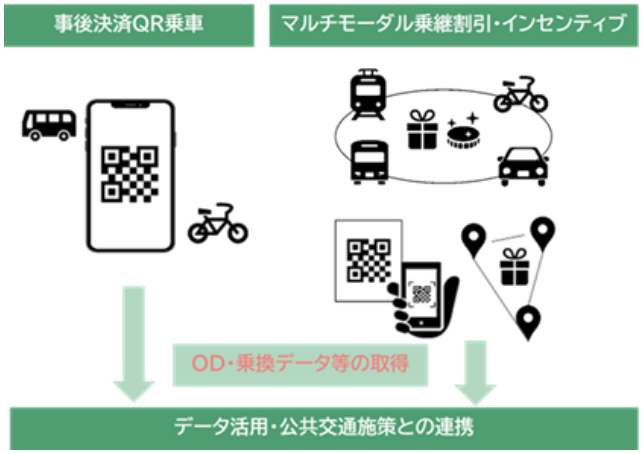
【実施エリア】



■対象交通機関

バス	かすがいシティバス、北部オンデマンドバス、名鉄バス（春日井市内）
鉄道	JR中央本線（勝川駅、春日井駅、神領駅、高蔵寺駅）、名鉄小牧線（間内駅、牛山駅、春日井駅、味美駅）
自転車	春日井市レンタサイクル（春日井市役所、JR春日井駅北口自転車等駐車場、JR勝川駅東自転等駐車場）
その他	名鉄協商「カリテコバイク」（名古屋市内） 名鉄協商カーシェア「カリテコ」（春日井市内）、名鉄協商パーキング（春日井市内の一部）

【本事業の取組の全体像】



【バス車内の車載器】



【JR春日井駅におけるQR読取の様子】



MLIT Copyright © 2025 by MLIT. All rights reserved.

春日井のりかえアップデート・プロジェクト｜春日井市MaaS推進検討会

プロジェクトの効果

課題に対する効果

#	課題	効果
1	柔軟な運賃設定やODデータの取得ができていなかった	本事業により、従来設定できなかった「事後決済」や「乗継割引」等の柔軟な運賃設定やODデータ取得が実現できた
2	連携したデータ取得や行動変容に繋がる有機的な連携、異なる事業者間の乗継割引などは実施できていなかった	本事業により、連携したデータ取得や異なる事業者間の乗り継ぎ割引が実現できたが、メリットの訴求不足等により参加者数が限定的となり、市民の大規模な行動変容につながる成果は得られなかった。
3	市民は乗り換えに抵抗を感じており、その結果公共交通利用を避ける傾向にあった	実証参加者のアンケート調査により、35%の人が複数の交通手段を乗り換えて移動する頻度が増加した。

KPI

【凡例】 赤字：目標達成　青字：目標未達成

#	測定項目	KPI	計測方法	計測頻度・回数	事業実施年度の目標値	最終結果	達成/未達成の原因
1	春日井市MaaSサイトの利用者数	GA4新規ユーザー数	ユーザー数を計測	月1回	1,500人/月平均	約1,531人/月	本PJの広報施策等により、実証期間中はサイト利用者が増加したと考えられる。
2	春日井市周遊きっぷ（QRコード）の購入数	春日井市周遊きっぷ（QRコード）の購入数	購入数を計測	月1回	400枚/月	94枚/実験期間（61日）	メリットの訴求不足、操作の難しさ、メリットに対する手間の増加などが考えられる。
3	かすがいシティバスの利用件数	かすがいシティバスの利用件数	件数を集計	月1回	28,000件/月	約28,000件/月	過年度からの継続的な施策の他、本PJによる訴求も一要因として考えられる。
4	利用者（アプリユーザー）のサービス満足度）	利用者（アプリユーザー）のサービス満足度）	事後アンケートにより集計	年度内に1回	ポジティブ評価する人が7割以上	70.0%	第1期実証実験期間中で生じたQRの読み取りにくさ等に対応できたこと等による効果が第2期実証期間中に表れたと考えられる。
5	乗務員、データ活用者（交通事業者や行政）の満足度	乗務員、データ活用者（交通事業者や行政）の満足度	事後アンケート・ヒアリング等により集計	年度内に1回	ポジティブ評価する人が過半数	バス乗務員：40.0% データ活用者：100%	乗務員：事業目的や対応について周知が不足する中で、追加対応を要したことが要因であると考える。 データ活用者：収集したサンプル数が少ないという課題は残るが、本検討会内で協議のうえ、一定のアウトプットを出せることを確認できたことが要因と考えられる。

MLIT Copyright © 2025 by MLIT. All rights reserved.